なつかしい思い出の旅

岡田静子

その後墓参に時々高知に行きました。長女小学三年、長男小学一年、次女幼稚園児の時は子づれ乍ら楽しい旅でした。盆は乗物が混むので八月の夏休みに入るとすぐでした。船に弱い私のために今は無くなった宇高連絡船に乗り、徳島本線を吉野川添いに上流に進み土讃本線に入り高知に着きました。

吉野川は上流に行くにつれトンネルが多く山にへばりつく様な鉄路はトンネル又トンネルで、祖谷渓は断崖絶壁が続き、車窓下には平家落人の伝説や民家が点々とあり、大歩危小歩危の渓流には屋形船の行き交う様も見えスリル満点の景もすぐトンネルに入ります。又右側の森の中に大杉という大きな目印が立っていて、驚くほど大きな大きな杉が一本天を貫ぬきそびえ立ち樹齢何年などと想像もつきません。いつもの如く墓参、二十四万石の高知城に登り、家族五人で大景を眺め、追手門より南に行くとホテル三翠園があり、山内家の邸宅であったそうで、「この庭に鶴が居るから見て来なさい」と主人に言われ大きな門を入りました。門番もなく広い庭園の向うに大きな建物がありました。右手に金網でかこわれ丹頂鶴が三羽いました。高知に来て鶴を見ようとは思いませんでした。優雅な姿を見て門を出てやがて鏡川に来ます。正面に筆山があり、筆を横に置いた形に似ている所からこの名がつけられたとか、清く澄んだ鏡川に映った緑の小高い山のたたずまいの何とすばらしく、南国土佐にこんな美しく静かな景色に出合うとは思いませんでした。

鏡川の堤防を大きな土佐犬をつれた人に逢いました。恐ろしい様な顔、からだの大きさ、かみつかれでもしたらと、子供たちをだきかかえる様にしてよけました。

はりまや橋は、昔は川が流れていましたが、今は暗渠になって赤い欄干だけは目立つのですぐわかります。橋のたもとに土産物店があります。

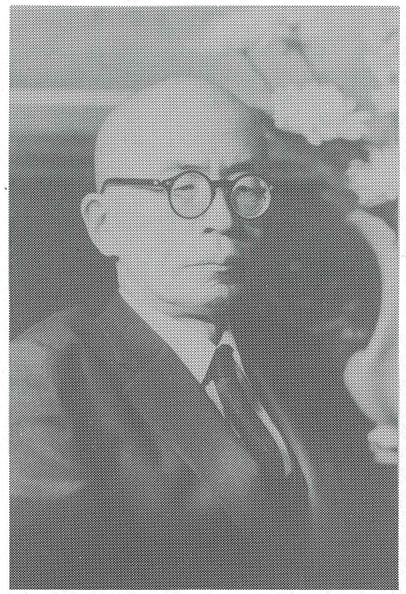
土佐の高知の
はりまや橋で
坊さんかんざし買うを見た
よさこい　よさこい

よさこい節を吟みながら、竹林寺の僧純信が、いかけやの娘に買ったかんざしは、花かんざしか、珊瑚のかんざしかなどと思いをめぐらしました。

五台山へはバスで登りました。中国山西省の五台山に似ているとの事で、僧行基がつけたそうです。ここからの眺めは市内で一番すぐれているそうです。竹林寺の庭園は夢窓国師作と言うので拝観しました。堂縁に立って庭を見ていると、僧が来て、お庭は立って見ず坐して見るものですと、坐布団を敷かれ座敷から眺めました。大小形さま〴〵の岩を配し、常緑樹を低く植えうしろになる程段々高く森の景となり、何処からか水のかなでる音が聞こえてくる様な不思議な感じで、ま夏の暑さもわすれて拝観しました。牧野植物園は寺の近くにありました。

夏の日は長く、桂浜に行き、坂本龍馬の銅像を見て、子供達に海水浴をさせました。太平洋の波と言ってもおだやかで、子供達は嬉々として遊び、私も手足を太平洋の潮につけました。主人の幼少の頃、春になると桂浜へ弁当もちで家族一日の旅を楽しんだそうで、その頃の写真が今も保存してあります。紺絣の着物を着た男の子二人と、幼児を抱いた丸髷姿がよく写っています。裏に明治四十二年四月五日桂浜にて写す。とあります。砂浜で見ていた主人は、昔を偲びなつかしげな様子で夢心地の様に見えました。「友の家」と言う旅館に一泊して帰路につきました。長女も長男も其の日の旅の記憶ははっきりと残っていない様です。既に五十年の月日は流れました。高知の旅の数々はまだ〴〵私の心の底に深く残っています。

金子武蔵氏御逝去



――金子武蔵さんを偲ぶ――

田代義雄

東大名誉教授の金子武蔵さんが他界されてから早くも五ヶ月になろうとしています。

金子武蔵さんは昨昭和六十二年十一月までは勉強一途につとめておられたのですが、十二月三日突然心筋梗塞のため急拠御住居最寄所在の清川病院に入院され御加療に専念されていましたが、大晦日の(十二月三十一日の)午後五時忽然と不帰の客となられました。

私は御親父の金子直吉翁の秘書をしておりました関係で、武蔵さんとも実懇にしていたのですが、昭和三～四年頃金子直吉翁が赤坂の乃木神社前の借家に御住居になっていた頃、武蔵さんが(東大助教授の頃)ヘーゲルの精神現象学を発刊されました初夏の或る日の出来事ですが、金子翁が運転手に指示され庭木の大銀杏の木影までひきよせられた唐椅子によりかかり、暫時の間武蔵さんの著書を御覧になっていましたが、小半時後金子翁は武蔵さんに色紙を持ってくるように指示され、武蔵さんが色紙を持って来るとその色紙に

「せみ鳴くや
樹下の老翁は
つんぼなり」

と一句を御読みになり武蔵さんにお前の本はこれだと、著書を解読しかねた意味合いを諷じた一句により武蔵さんに答えられるに至りました。

金子武蔵さんは、昭和二十年頃日野市に所在した神戸製鋼の社宅に一時御厄介になられた事がありましたが、のち平山在に広範な土地付住宅を求めて移転されましたところその移転に対し、平素から武蔵さんに好意を持っておられました賀集益蔵さんから、学業を離れて農村地帯に住居を求めて移住するのはいかぬと反対され、都心地区に住居を求めるよう勧告されました結果、武蔵さんも賀集さんの進言を心よく納得され、昭和二十六年に平山在の居住地より現在の高円寺南の居住地に移転されるに至りました。

平山在より高円寺への移転費は賀集さん、安東直市君、田代の三者が共出したのですが転居先の高円寺南の宅地七十四坪は借地になっていましたので、移転直後田代が武蔵さんに勧めてその宅地も幸いに額安に買入れる事が出来ました。

住居の改造については、橋本隆正氏が太陽をバックにして改造費を御心配いただき、建物の構造も武蔵さん好みの三階に勉強部屋を設ける等、武蔵さんは今の御住居にさぞかし満足して居住された事と信じます。

御冥福を心よりお祈り致します。

弔辞

故金子武蔵先生の御葬儀にあたり東京大学を代表して謹んで哀悼の意を表します。

先生は昭和三年三月東京帝国大学文学部哲学科を御卒業になり、大学院において研鑽を積まれたのち、昭和十三年三月から本学文学部の倫理学助教授として本学の教壇に立たれました。昭和二十一年十二月教授に御昇任、新制東京大学の発足後は大学院人文科学研究科の倫理学の課程をも擔任され、昭和四十年三月定年により退官されるまで二十七年間の長きにわたって、本学における倫理学の教育と研究に力を尽されました。また先生は御在職中、ひとり倫理学科教室主任としてのみならず、昭和三十二年から二年間文学部長として学内の要職につかれ、率先して学部の運営に尽瘁され、退官後東京大学名誉教授の称号をお受けになりました。

先生は、お若い頃から倫理学の原理について深い思索をつづけてこられましたが、先生の学問は西洋倫理思想史の広汎な学殖と精緻な分析によって裏づけられております。昭和十九年に刊行され文学博士号授与の対象となった著書『ヘーゲルの国家観』は、ヘーゲルの全体像を本格的に叙述したわが国最初の著作として画期的なものであります。また先生の畢生のお仕事でありましたヘーゲル『精神の現象学』の訳業およびその註釈は、単なる翻訳書の域を超えた研究書であり、日本におけるヘーゲル研究を世界的な水準に押上げたものであります。このほか先生の御業績は、古代から現代に至る西洋倫理学・倫理思想についての枚挙にいとまのない程多数の御著書、論文となって結実しておりますが、これらのお仕事を一貫するものは、テキストを読むにあたって一言半句も忽諸にしない先生の厳格な研究態度と、ひたすら真理のみを追究する学問的な情熱でありました。

先生は第二次世界大戦による戦災で、御自宅・書物のすべてを焼失するという悲運に見舞われながらも毅然として寝食を忘れて学問、研究に没頭され周囲に深い感銘を与えられました。かくして先生は、この学問への情熱を後進の教育にも注がれ、その厳しい御指導によって多くの卓れた後継者を育てられたのであります。しかし先生の御教育は決してただ厳しいだけではなく、同時に後輩・学生一人一人の「実存」にまで深い思いやりと心配りをされる、大変優しく温たかなものでありました。先生の包容力と魅力あふれるお人柄が大学の内外を問わず、先生をお慕いする多くの後進の学徒をその周囲に集め、昭和三十六年から二十年の長きに亘って会長を務められた日本倫理学会をはじめとする学術団体を通じて、先生は日本の学界のため一貫して指導的役割を果たされたのであります。まことに今日のわが国の倫理学界は、金子先生によって築かれたと申しても過言ではありません。

御退職後の先生は成蹊大学教授として、また国際基督教大学大学院教授として後進の指導にあたられる一方、成蹊大学で初代文学部長として教育行政の任にあたられ、あるいは文部省の各種審議会に加わられ、さらには日本学士院関係のお仕事に尽力されるなど、多くの分野でその学識を生かして活躍されました。先生は、どのような場面でも学者としての立場を貫かれ、直截で的を射た発言をしてこられましたが、その背後には御入院直前に至るまで研究に没頭し続けられた先生の求道的な生活が存在していたことを感じないわけにはまいりません。

それだけに今、にわかに先生を喪いましたことはまことに残念でなりません。私どもは、先生がお遺しになった有形無形の遺産を大切に承け継ぎ、これを次代に伝えて行くことによって先生の御遺志を生かしたいと存じます。この世を超えた安息の場所から、私ども後進の歩みを正しくお導きくださることを願いつつ、先生の御冥福をお祈りして、お別れのことばとさせていただきます。

昭和六十三年一月九日

東京大学総長　森　亘

営業品目

重ね板ばね・コイルばね・トーションバースタビライザー・特殊ばね・線ばね・薄板ばね・シートおよびシートばね・パイプハンガ・パイプクランプ

日本発条株式会社

相談役名誉会長　坂本　壽
取締役会長　池谷政雄
取締役社長　清水光男

本　社　横浜市磯子区新磯子町1番地
支　店　東京・太田・浜松・名古屋・大阪・広島
工　場　横浜・川崎・滋賀・太田・豊田・広島・厚木・伊那

営業品目

モリブデン・タングステン・接点・超硬合金
浸硼加工・モリブデンタングステンメッキ

東邦金属株式会社

取締役会長　鈴木治雄
取締役社長　岩井靖裕

本　社　〒541　大阪市東区北浜3丁目5番地大阪神鋼ビル
電話　大阪（06）202－3376
東京支店　〒100　東京都千代田区丸ノ内1丁目2番1号東京海上ビル
電話　東京（03）281－2894
工　場　北九州市・寝屋川市

製造品目

蒸溜脂肪酸・単体脂肪酸・各種脂肪酸エステル
脂肪酸クロライド・ハロゲン化アルキル・ポリエチレン用滑剤
高級代粧品基剤・樟脳誘導体・精製樟脳

日本精化株式会社

取締役社長　宮永悠紀雄

大阪市東区備後町2丁目45番地
〒541　電話(06)231-4781(代表)

たつみ　第49号
昭和63年8月1日発行
編集人　松下重男
辰巳会本部
神戸市中央区京町72
太陽鉱工株式会社内
電話331・3281
印刷所　中外印刷株式会社